みんなの楽しいお祭り
永野まつり

11月1日、永野小学校で恒例の永野まつりが開かれました。

これは、学校農園に植えているサツマイモの収穫を祝って始まったもので今年が6回目。

色とりどりの学年別に分かれたハッピを着て、はちまきを締めた粋な格好の児童たちは、発泡スチロール製の台座に木の実や銀杏の葉を貼り付けたり、似顔絵を書いたりしてそれぞれ工夫した手作りのみこしを担ぎ「わっしょい!わっしょい!」と他の学年に負けないよう元気よく校庭を練り歩きました。

またその後、体育館で自分たちが育てた花苗や手作りのデザート、ジュースなどの品物を販売する模擬店舗を開店させ「いらっしゃい!いらっしゃい!」と大きな声で呼び込みをすると、体育館は地元の方々で賑わいをみせていました。

▶花の苗を売る児童

感慨もひとしお
シクラメン初出荷

昨年より新規就農者として、花栽培を手掛けられていた城戸大作さんのシクラメンが、11月6日鹿児島市の農協市場、園芸市場に向けて初出荷されました。

城戸さんは、現在11アールの敷地内に3棟のビニールハウスを建て4300鉢のシクラメンを栽培されており、ほぼ一人で管理栽培されています。今回出荷のシクラメンは昨年の12月に種を蒔き、ほぼ1年がかりで育てられたものです。

今回の初出荷に城戸さんは「今年は台風が多くて、ビニールを剥ぐのがたいへんだった。高値で取引されればいいのですが。」と話されました。

城戸さんのシクラメンには城戸花園のオリジナルマークが入っており、週末には特産品直売所でも販売される予定です。

◀出荷予定のシクラメンを持つ城戸大作さん

びっくり箱

家族

〔作文〕（校内弁論大会より）

薩摩中二年　中島成子さん

皆さん、最近暗い事件がひんぱんに起こっていると思いませんか。幼児虐待や、中学生や高校生が、親や祖父母を殺すといった事件です。こういった事件の動機は、「子どもがうるさい」「言うことを聞かない」とか、「ムカツクから」といったものがほとんどです。

私は、こういう事件を聞くとすごく悲しい気持ちになります。また、こんな事件が多発する中、新聞やテレビでも「家族」について見直そうということがいわれるようになりました。そこで私も「家族」というものについて考えて見ることにしたのです。

皆さん、「家族」とは何だと思いますか。私は「家族」とはつながりだと思います。

私たちのお父さん、お母さん。そのまたお父さんとお母さん。たどっていけば、最後は一つになります。また何年後、何十年後には私たちも自分の家庭を持ち、そしてまた新しい「家族」が増える。

「家族」とは昔からつながりこれからもどんどんつながっていく、リレーみたいなものだと思います。

また「家族」の中にもつながりがあります。例えば今毎日のように報道されている北朝鮮から一時帰国した人たちです。二十四年間という空白の時間があるのに、ずっと一緒に暮らしていたかのように、笑ったり、話したりしていました。

つまり、「家族」とはただ一緒に暮らしているということだけではないのです。

私は最近、前に比べると「家族」との会話が減りました。だからといって「家族」とのつながりが途切れていったとは思っていません。父はテストのたびに「どうだった」「よくがんばった」と言ってくれ、母は「あまり無理しないでよ」と言ってくれます。なによりも、家に帰ったときに、「家族」の誰かが